

### 第3回山口市中心市街地活性化協議会(要約)

1. 日 時 平成18年11月17日(金)19:15~21:00
2. 場 所 山口商工会議所 4階常議員会室
3. 出席者 構成員16名、オブザーバー3名、その他4名 合計23名
4. 内 容

規約第11条第2項により、中野会長が議長となり議事に移る。

#### 【協議事項】

##### (1)協議会委員について

事務局より、計画区域内に住宅を建設する計画があることから、規約第5条1項4号に基づいて有限会社どうもんが協議会に参加したこと、第2回協議会において消費者にも意見を聞きたいとの意見が出たことから、規約第5条1項5号に基づいて山口市消費生活研究会に構成員に加わってもらいたい旨の説明があり、この承認を議場に諮ったところ満場一致これを承認可決し、両者より挨拶があった。

##### (2)中心市街地活性化基本計画(案)について

山口市中心市街地活性化推進室より、資料に基づき中心市街地活性化基本計画(以下「基本計画」)の具体的なエリアについて説明。

変更している点としては、川端市場・公設市場の部分をエリアに含めていないこと、県道204号線で分断されており、それより以北を含める理由付けが難しいこと等から資料に示された75haを中心市街地とすることについて説明。

議長が、基本計画エリア内の事業実施計画について協議することを議場にはかり、異議が無く今後協議会では、75haのエリアで協議することになった。

引き続き山口市中心市街地活性化推進室より基本計画(案)について説明し協議した。

主な意見等は次の通りである。

基本計画の方針と今後5年間で実施される予定の事業との間にギャップを感じる。当該基本計画は基本計画のレベルでなく実施計画レベルだと思う。本来は、基本計画(案)の中の基本方針をどのように実行に移していくかを協議する必要があり、基本方針と計画の間に戦略がないように思う。

中心商店街に子育て支援等の施設が揃っていることは珍しいので、是非維持してもらいたい。

自家用車が運転出来なくなった方がどこを利用するかというと、公共交通が整備された中心市街地であると思う。乗り合いタクシーでステーション間を乗り継いで中心市街地に来るような仕組みづくりが大事だと思う。商店街が衰退しないで欲しいし、買い物客やウィンドウショッピングする方が利用しやすい商店街にしてもらいたい。

現在商店街には電気店は1店舗くらいしかない。まちなかに暮らす高齢者が電球1個交換することも大変である。この利益が上がらないサービスを取り扱う店舗やサービスマンを検討

する必要がある。高齢者が住みやすいバリアフリーな町並みが整備されただけでは、まちなか居住はなかなか進まないと思う。電気店の定年退職者を派遣するなど、雇用助成金などもあれば良いと思う。借り上げ住宅だけでは弱い気がする。

基本的には、定住人口・事業所人口の消費力が強い。これらの人口減少が商店街衰退の1番の原因となっているという認識である。

定住人口を増やすことが最も良いと思うが、定住人口を増やすことは容易ではない。学校など公共施設が増えれば、若者も中心市街地に増えるのではないかと思う。

交流人口は県道204号線より北側で多く、特に県立美術館の集客力は突出している。交流人口が山口に来たとき、将来定住してみようと思う方が増えることも考えられる。将来的なことを見据え、県道204号線より北側から中心市街地に導入出来るようなしくみづくりが必要である。その一策として、地下道・陸橋を取り除くことが挙げられる。この県道周辺に大規模な駐車場の建設も考えられる。

道場門前商店街では、生ゴミの堆肥化システムを活用し、道場門前の大駐車場の屋上で花の栽培を行いたい。この花を商店街の各店舗の装飾に活用し美しい商店街を目指したい。

基本計画はエリア内の事業だけをとらえているが、周辺地区との回遊性は重要である。駅通り地区は山口県外からも若い来街者が多く、逆に大殿地区など他の地区の良さも知ってもらいたい。基本計画にソフト事業はあまり掲載されてないが、重要と思う。

公共交通の核が中心市街地エリア内には必要である。

中心市街地は現在一戸建て住宅が減少し、砂漠化している。原因は、地区内の狭隘道路問題にあり、新たに一戸建てを建てようと思っても困難な状況がある。地方だけでもこの法律の壁がクリア出来ない限り一戸建ては増えないかもしれない。

県立美術館周辺のパークロードは環境が良く魅力的な空間である。美術館のイベント集客の効果も高い。基本計画方針のなかに“魅力的な都市空間づくり”とあるが、一の坂川周辺整備事業は重要と思う。商店街が本当に魅力的な空間であるかが疑問。アーケードは閉鎖的に感じ魅力がないように思う。米屋町商店街が計画している一の坂川との回遊道路の整備事業については、来街者が喜ぶような空間づくりをお願いしたい。“自然と文化の薫るまち”とあるが、山口の過去の文化を活かした事業(プロジェクト)の掲載がないので、文化を活かしたプロジェクトを計画してもらいたい。

商店街の活性化については、若者が行ってみたいと思うような魅力が必要で、人が人を呼ぶような方法を考えてもらいたい。

生ゴミ処理を活用した事業は良いアイデアと思う。「まちの便利屋さん」も良いアイデアだと思う。消費者の立場から、「これありますか」と店員に尋ねて「ありません」ではなくて「このお店に行かれたらありますよ」やもっと進んで連絡をしてもらおうような、商店街間の壁をなくすバリアフリーも必要であると思う。商店街に「わたしのお店はトイレの使用可」というような表示をしてもらいたい。一店逸品運動も良いと思う。お店の逸品も良いが、高齢者にとって良いもの、若者にとって良いものの提示の仕方もあると思う。

川端市場は移転の問題を抱えている。駐車場の問題がクリアできれば市場の魅力も向上するし、入りやすい市場になると思う。市場に来たついでに商店街へ足を運ぶことも期待でき、きくと思う。

外国人が山口に来た際、山口を紹介するが、商店街に案内しようという気になれない。商店街を環境的に整備することは良いが、人(商店街関係者)の心の整理が必要と思う。人の手があって温かい方がバリアフリーだと思う。そのような点の実施計画で見えてくると良いと思う。駐車場はあっても停めにくいところもあるので、駐車代行してもらえるような仕組みがあれば良い。

高齢者のまちなか居住は、マンションなどの集合住宅だけでなく、金融機関との連携で低利な融資で一戸建てが改修できるような仕組みも必要と思う。中心市街地はショッピングセンターやショッピングモールという小さい枠組みではなくて、自然や歴史文化があり、コミュニティに支えられた地域の中でライフスタイルの提案がされているような店舗がある空間づくりを基本計画に盛り込んでもらいたい。

公共交通の立場から観光というテーマで言うと、松江市が実施している「くるりんバス」というものがあり、1回乗って何円ではなく、1日乗って何円というもの。点と点を結ぶ線で捉え、交流人口を増やせば中心市街地や観光地にも人が来て良いと思う。JR 宮野駅周辺の土地を市が借り上げてそこで自家用車からコミュニティバスに乗り換えるパークアンドライドを実施するような交通政策があっても良いと思う。

合併後の山口市の核である中心市街地をどのようなまちにするのかという議論が必要であると思う。基本計画のエリアである75haは、人口は山口市全体の2%で4000人、商業施設は山口全体の19%を占めている。商業集積が高いわりに人口集積がない実態がある。当該エリアに購買人口が隣接していないといけなからと思う。基本計画のなかで“文化”という言葉が一人歩きしている感がある。ソフト事業は重要である。中心市街地については高齢化率が高く、「まちの便利屋さん」のニーズも高いと思う。アンケート結果については、休憩場所やトイレが少ないという意見があり、これは一の坂川周辺整備事業のなかで実施を検討している。アンケートの意見で最も多かったのは活気が無いということであった。買い物以外にも楽しめるようなイベントなどを実施することも重要であると思う。

### (3) その他について

今後の進め方について、基本計画(案)について委員所属団体に持ち帰っていただき、11月24日(金)までに構成団体の皆様のご意見を事務局まで提出していただきたい。今回の協議会の皆様の意見と提出されたご意見を山口市に提出し基本計画に反映する。と同時に意見書(案)を各委員に配布する。この意見書(案)を次回の協議会で協議する。

以上